



蜘蛛の糸

挿絵 書き換え
原 作
原 稿

芥川龍之介
宮崎 龍之介
林 虹
子

この日本語版グレイデイド・リーダーは JGR
プロジェクトグループが開発した試作品です。
販売を目的としたものではありません。

© 2003 by JGR プロジェクトグループ

地獄^{じごく} 極楽^{ごくらく}

きれいで楽しいところ
悪いことをした人^{ひと}がいるところ



糸^{いと}

お釈迦^{しやか}さま



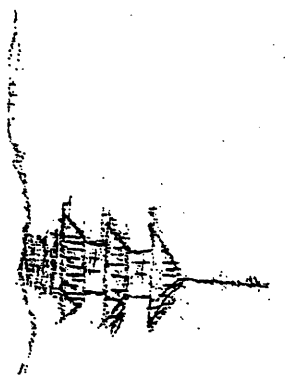
カンダタ



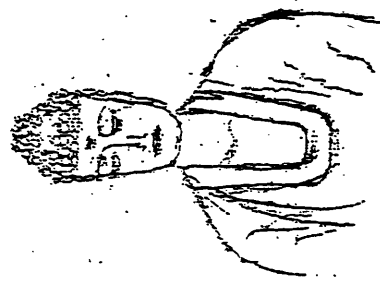
人はみんな、死にます。死んだら、どこへ行く
くでしようか。

極樂へ行く人もあります。行くことができな
い人もあります。どんな人が極樂へ行くこと
ができるでしようか。いいことをした人でし
ようか。悪いことをした人でしようか。

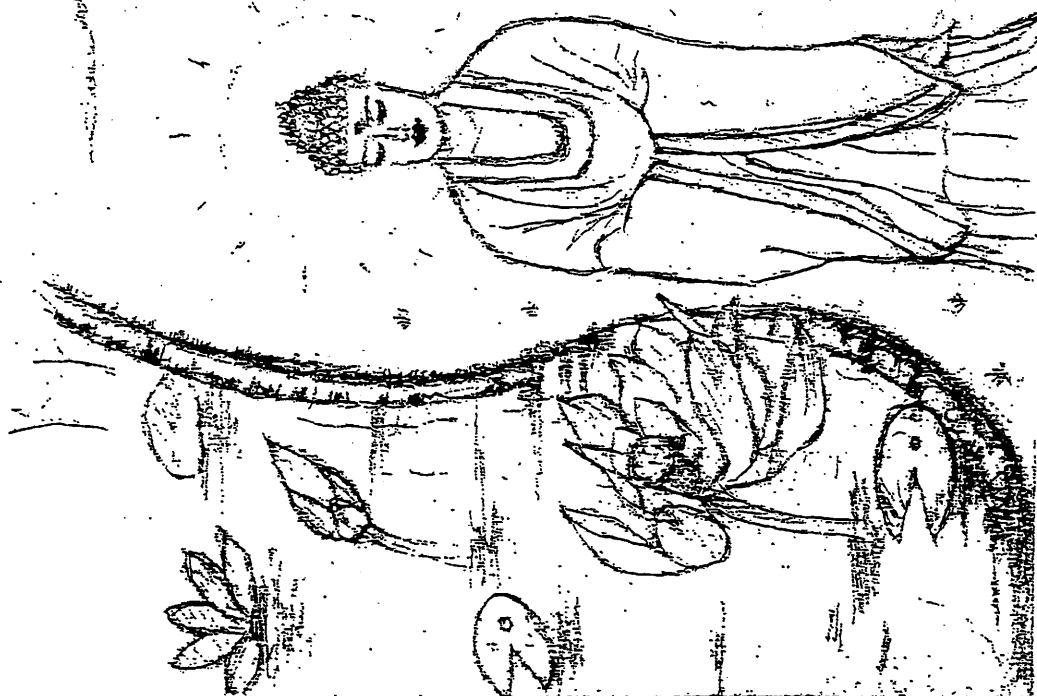
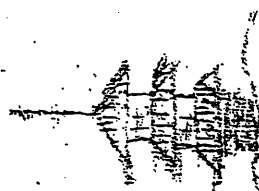
極樂は、きれいで楽しいところです。極樂に
は、花がたくさんあります。いろいろな色の花
があります。赤い花もあります。白い花もあ
ります。花はみんな、とてもきれいです。



明るくて気持ちいい春の朝です。
極樂には、赤や白の花がたくさんあります。
花はとてもきれいです。



そして、お釈迦^{しやか}さまは歩^{ある}いて行^いきました。



(2)

ここは極楽です。極楽には池があります。きれいな池です。池の中に花があります。たくさんあります。赤や白のきれいな花です。

春の朝です。明るくて、気持ちいい朝です。男の人が極楽の池の近くを歩いていました。この男の人はお釈迦さんです。お釈迦さんは池の近くの花を見ました。そして、「きれいな花だ。」と小さい声で言いました。つぎに、池の中の花を見ました。そして、「これも、きれ

(4)

お釈迦さんは、極楽の池の上からカシダタを見ていました。あゝ、カシダタは血の池に落ちた。私はカシダタを地獄から出すことができなかった。カシダタは、自分ひとり、地獄から出たいと思つた。『自分ひとり』が大切だった。だから、カシダタはまた、地獄に行った。．．．とお釈迦さんは小さい声で言いました。

な 冷^めたくて 赤^{あか}い 血^ちの 池^{いけ}の 上^{うへ}に、 極^{ごく}楽^{らく}の きれ
は と ても きれ い だ す。 一^{いっ}本^{ぽん}の クモ の 糸^{いと}



い だ 」 と 言 い ま し た。 池^{いけ} に は 水^{みづ} が た く さ ん あ
り ま す。 き れ い な 水^{みづ} で す。 水^{みづ} の 上^{うへ} に い ろ い ろ
な 色^{いろ} の 花^{はな} が あ り ま す。 赤^{あか} い 花^{はな} も あ り ま す。 白^{しろ} い
花^{はな} も あ り ま す。 水^{みづ} の 上^{うへ} の 花^{はな} と 花^{はな} の 間^{あいだ} か ら、 池^{いけ} の
下^{した} が 見 え ま し た。 池^{いけ} の ず つ と 下^{した} は、 地^じ 獄^{ごく} で す。
お 釈^{しやく} 迦^か さ ま は 池^{いけ} の ず つ と 下^{した} を 見 ま し た。
地^じ 獄^{ごく} を 見 ま し た。 地^じ 獄^{ごく} に た く さ ん の 人^{ひと} が い ま
し た。 た く さ ん の 人^{ひと} の 中^{なか} に、 男^{おとこ} の 人^{ひと} が い ま し
た。 こ の 男^{おとこ} の 人^{ひと} を お 釈^{しやく} 迦^か さ ま は 知^し っ て い ま し
た。

「あ、あの男の名前は、えくと、忘れた。あ、ちよつと待って。そうだ！『カンダタ』だ。」



このカンダタは大泥棒でした。大泥棒は、悪い、悪い泥棒です。他の人のものをとりまします。他の人のお金や着物をとります。

そのときです。きれいなクモの糸がカンダタの手の上でプツンと切れました。カンダタは、「あつ」と言つて、冷たくて赤い血の池に落ちました。



く ない ! 赤^{あか}い 血^ちの 池^{いけ}へ 行^いき た く ない 。 地^じ獄^ごへ
 帰^{かえ}り た く ない ! 地^じ獄^ごは 好^すき じ や ない 。 極^{ごく}楽^{らく}へ
 行^いき た い 。 き れ い な 極^{ごく}楽^{らく}へ 行^いき た い ! 血^ちの 池^{いけ}
 に 落^おち た く ない 。 落^おち た く ない ! — —

「 こ ら ! 悪^{わる}い 泥^{どろ}棒^{ぼう} た ち !

こ の ク モ の 糸^{いと} は 私^{わたし} の も の
 だ 。 私^{わたし} の 糸^{いと}

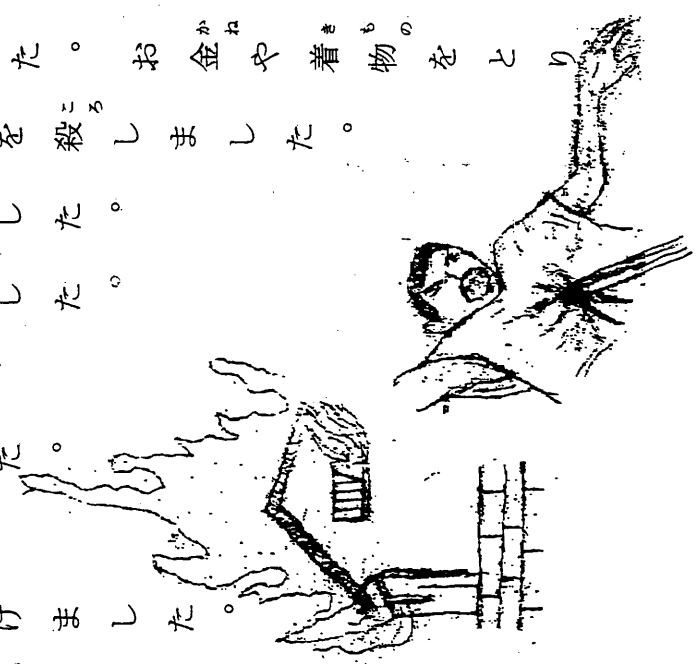
を つ か ん で は

い け ない 。 上^{うへ}へ 来^きて は

い け ない ! 」 と カ ン ダ タ は

大^{おお}き い 声^{こえ} で 言^い い ま し た 。

カ ン ダ タ は 大^{おお}泥^{どろ}棒^{ぼう} で し た か ら 、 他^{ほか} の 人^{ひと} の も
 の を た く さ ん と り ま し た 。 お 金^{かね} や 着^き物^{もの} を と り
 ま し た 。 カ ン ダ タ は 人^{ひと} を 殺^{ころ} し ま し た 。
 た く さ ん の 人^{ひと} を 殺^{ころ} し ま し た 。
 た く さ ん の 人^{ひと} が 死^し に ま し た 。
 カ ン ダ タ は 人^{ひと} を 殺^{ころ} し て 、
 お 金^{かね} や 着^き物^{もの} を と り ま し た 。
 家^{いえ} に 火^ひ を つ け ま し た 。
 た く さ ん の 家^{いえ} に 火^ひ を つ け ま し た 。
 家^{いえ} の 人^{ひと} が 驚^{おどろ} い て 家^{いえ} か ら 出^で ま し た 。
 そ の と き 、 家^{いえ} に 入^い っ て 、 家^{いえ} の 中^{なか} の お 金^{かね} を と り



ました。

カシダタはいろいろな悪いことをたくさんしました。でも、いいこともしました。ひとつ、

カシダタが道を歩いて
いたとき、カシダタの前を
小さいクモが一匹、歩いて

「あ、こんなところに一匹、

クモがいる。」カシダタは足で
クモを殺したと思います。でも、そのと

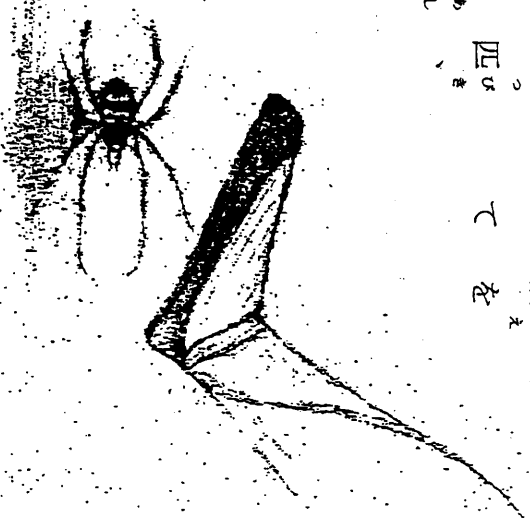
そうして、また下を見ました。

「あつ。あれはなんだ！」「カシダタはもっと大
きい声で言いました。

たくさんさんの人が、冷たくて赤い血の池からき
れいなクモの糸をつかんで、上へ上へ来るの

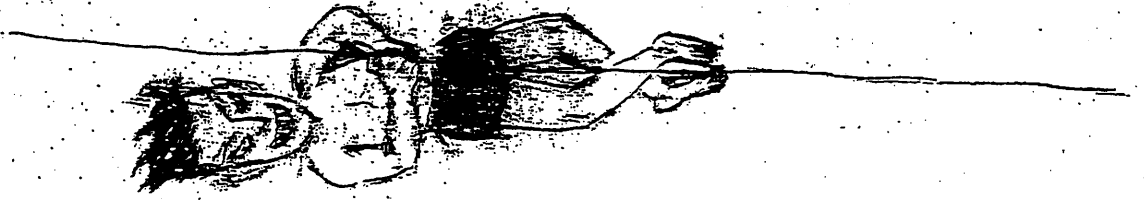
です。カシダタはこれを見て驚きました。
——これは、クモの糸だ。クモの糸は強くな
い。こんなにたくさんの方が糸をつかんだら、
このきれいな糸は切れる。切れる？

ああ、切れるかもしれない。切れたら、わた
しはまた、あの冷たい血の池に行き？ 行きた



ずつと下^{した}ですから、もう見^みえません。

「二^{ふた}つの手^てできれいなクモの糸^{いと}をつかんで上^うへ行^いったら、地^じ獄^{ごく}から出^でることが出来る。ウハハハハ。」とカンダタは大^{おお}きい声^{こゑ}で笑^{わら}いました。



き、——待^まって。この小^{ちい}さいクモは生^いきてい
る——と思^{おも}いました。

——私^{わたし}と同^{おな}じだ。私^{わたし}も生^いきている。このクモ
も生^いきている。私^{わたし}もクモも死^しんでいない、生^いき
ている。クモは生^いきているから、クモを簡^{かん}単^{たん}に
殺^{ころ}してはいけない——と思^{おも}って、殺^{ころ}しません
でした。

お釈^{しゃ}迦^かさまは、地^じ獄^{ごく}のカンダタを見^みて、思^{おも}い
ました。

——カンダタは悪^{わる}いことをたくさんした。で

も、やさしい気持ちもあつた。クモを殺さなかつた。カシダタを地獄から出した。出すことはできないだろうか？――

お釈迦さまは近くを見ました。池の中にたくさん花があります。花の近くに葉があります。その葉の上にクモが一匹いました。クモは、葉の上で、糸を出していました。きれいな糸です。お釈迦さまは、そのきれいな糸を手にとりました。そして、その糸を花と花の間から水の中に入れました。

大泥棒でしたから、こんなことはとても上手です。でも、地獄から極楽までは、とても遠いのです。

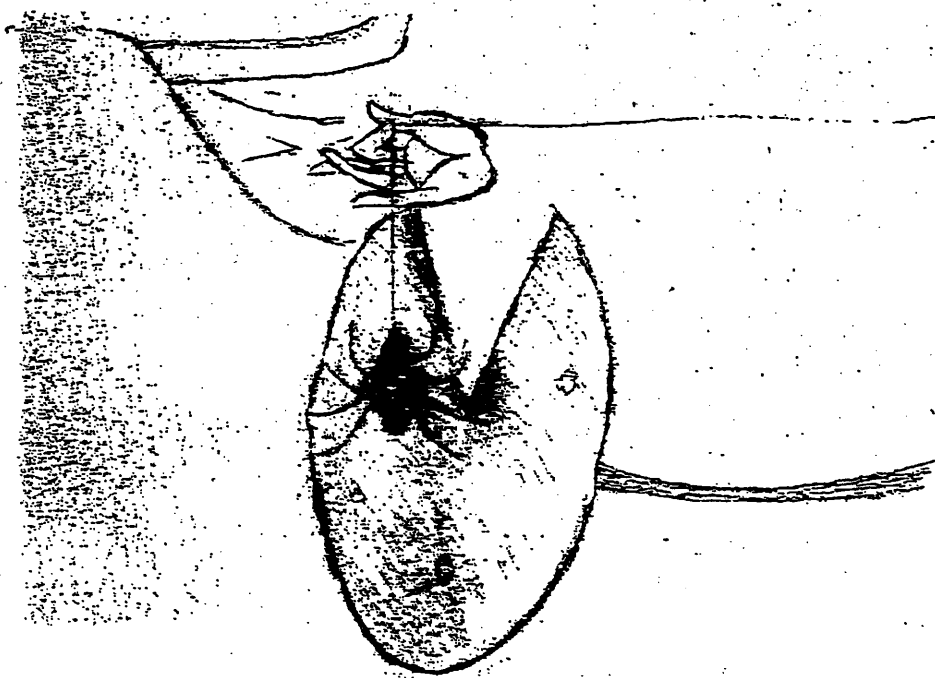
上へ行っても行っても、まだ上があります。カシダタは疲れました。手が痛い。足も痛い。――少し休みたい――とカシダタは思いま

しました。そして、休みました。下を見ま

した。冷たくて赤い血の池は下です。ずつと下です。



糸は下へ、下へ行きました。ずっと下へ行きました。



——とカンドタは思いました。

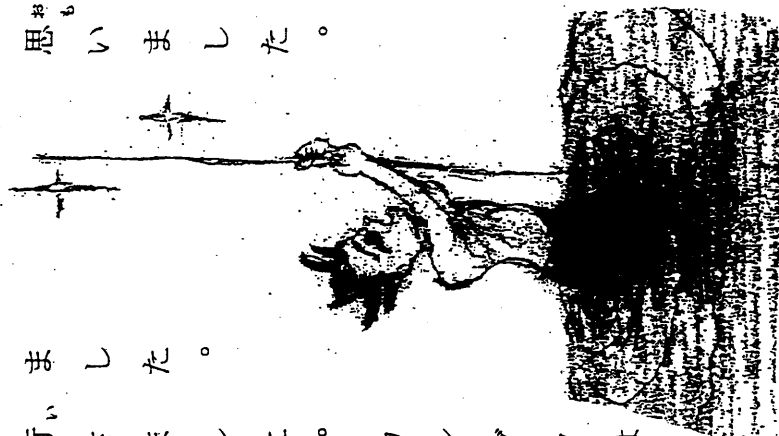
カンドタは、

すぐにきれいな

クモの糸を

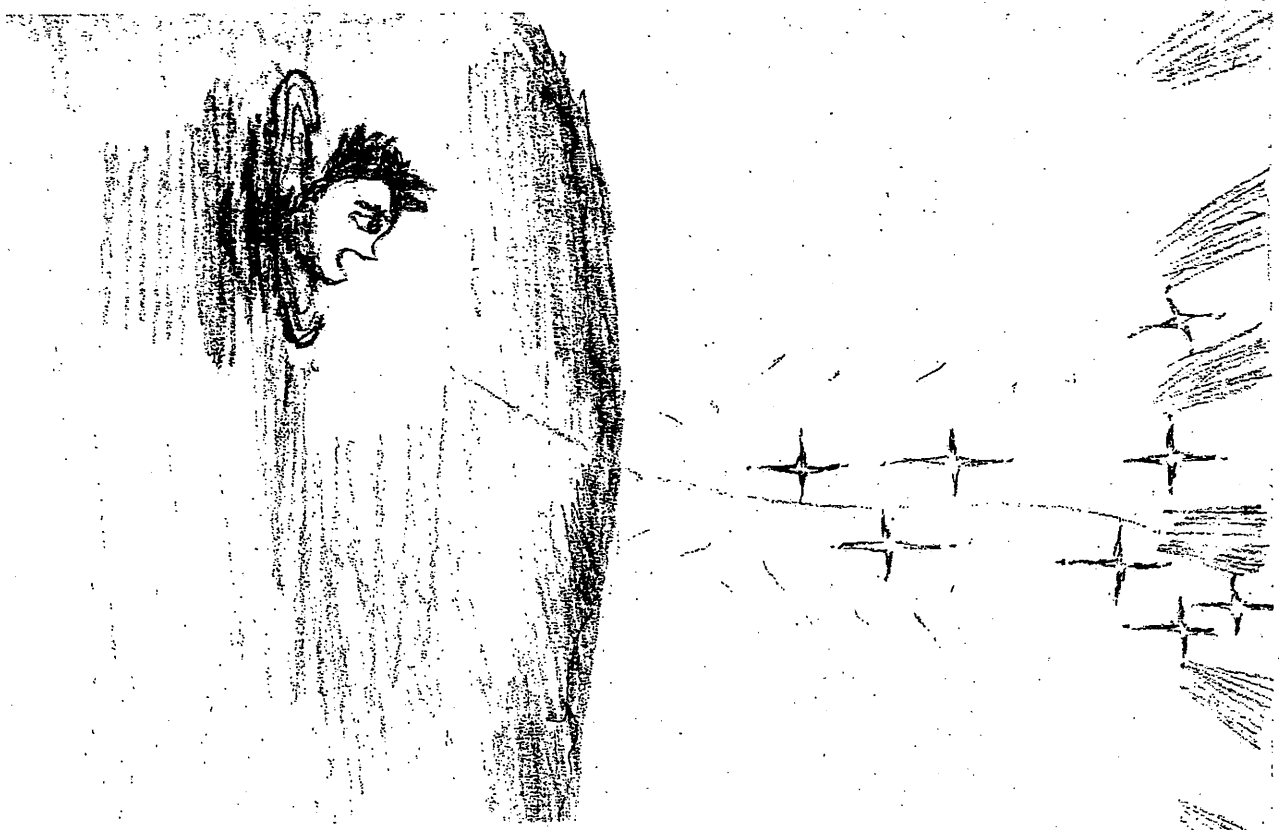
二つの手でつかみました。

そして、上へ上へ行きました。カンドタは



ここは、地獄です。地獄には、血の池があります。血の池は赤いです。たくさん悪い泥棒が人を殺しました。いい人たちがたくさん死にました。泥棒が殺したとき、いい人たちの体から、血がたぐさん出ました。赤い血が出ました。血の池は血はこの人たちの血です。そして、血の池はとてもしたいです。冷たい血の池にたくさんのがいます。悪いことをした人たちです。この人たちは、ときどき、冷たくて赤い血の

クモの糸です。きれいなクモの糸です。

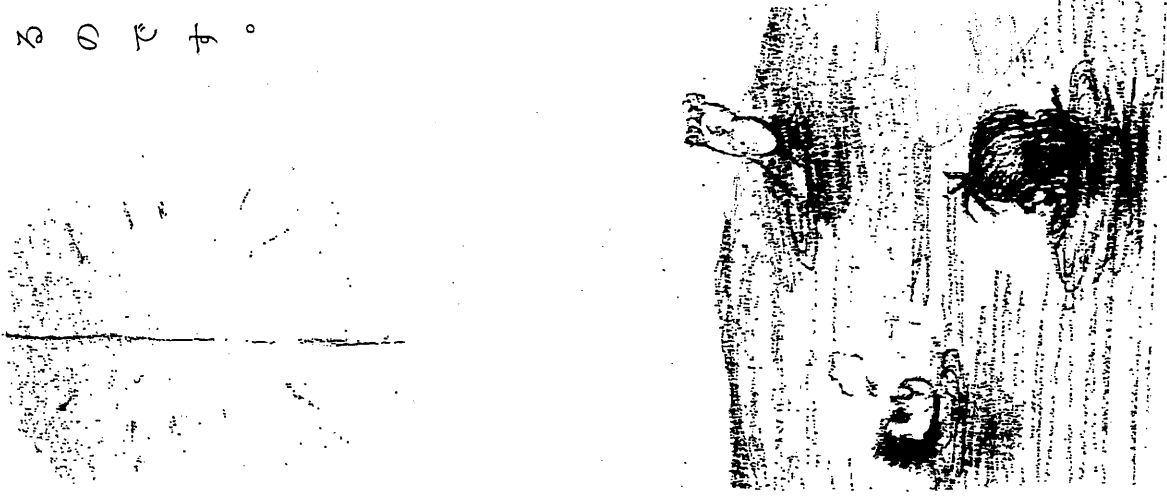


の 上^{うへ}を見^みました。

血^ちの池^{いけ}のずつと上^{うへ}は極^{ごく}楽^{らく}です。その時^{とき}です。

——あ、あれは何^{なん}だ？——

カンダタは驚^{おどろ}きました。ずつと上^{うへ}の遠^{とお}い遠^{とお}い
極^{ごく}楽^{らく}から、クモの糸^{いと}がカンダタのところへ来^く
るのです。



池^{いけ}から頭^{あたま}を出^だして、「ハア——」と言^いいま
す。そして、また、冷^{つめ}たくて赤^{あか}い血^ちの池^{いけ}の中^{なか}に
入^{はい}ります。

この人^{ひと}たちの中^{なか}に、カンダタがいます。カ
ンダタは、冷^{つめ}たくて赤^{あか}い血^ちの池^{いけ}から頭^{あたま}を出^だし
ました。——あ、この冷^{つめ}たい池^{いけ}は好^すきじや
ない。この赤^{あか}い血^ちの池^{いけ}から出^でたい。わたしは悪^{わる}
いことをたくさんした。だから地^じ獄^{ごく}に來^きた。で
も、地^じ獄^{ごく}は好^すきじやない。この地^じ獄^{ごく}から出^でた
い。どうしたら、出^でることができらるだろうか？
——とカンダタは思^{おも}いました。そして、血^ちの池^{いけ}